

協定書を交わす三保市長（左から2人目）と
伊藤社長（同3人目）ら

スーパーチェーンいちい（福島市）と二本松市は22日、地域見守りのための協力協定を結んだ。高齢者宅や施設などを訪問する移動スーパー「とくし丸」による安否確認などを行い、住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりにつなげる。

高齢者見守りへ協定

いちいと二本松市

協定は、1人暮らしの高齢者らの安否確認や異変の早期発見・対応で、孤立死や虐待などを未然に防ぐのが目的。移動販売時に異変を把握した際に関係機関などへの連絡、通報などに協力する。同社の協定締結は県内で6自治体目。

とくし丸は市内全域をカバーする。同社系列のスーパー鎌倉屋を拠点にする菅野光夫さん(57)によると、高齢の客が亡くなっていったのを見つけた事例があったという。

締結式は市役所で行われ、伊藤信弘社長と三保忠一市長が協定書を交わした。

三保市長は「市民が生まれ育った地域で安全に暮らすために協力をお願いする」と述べ、伊藤社長は「お客さまの安全・安心を守ることで地域に貢献したい」と語った。伊藤大地専務・鎌倉屋社長、鈴木富夫とくし丸事業部課長が同席した。

